なぜ「デザイン」が大切か

「デザインする力」が将来、活きてくる

キャリアデザインは、充実した大学生活を過ごすために有効であるだけでなく、
「デザインする力」そのものが将来、社会に出てから活きてくることを理解しよう。

デザインをした人、しなかった人では大差がつく

「行き当たりばったり」で大学生活を過ごした人と、目標を持ってがんばった人とでは大きな差がつきます。無目標の人は、同じことを何回も繰り返したり遠回りしたり、得るものが少ない傾向にあります。そのうえ、目標が見えていないので反省することもなく、迷子になって自分を見失ってしまうことになります。「大学生活は誰にも縛られずに、自分のやりたいことをのびのび自由に謳歌したい」と思っている人は多いでしょう。しかし自分の生き方をデザインしない人は、自分が本当にやりたいことや好きなことが見出せません。

「大学生活のデザインは頭の中に入っているさ」という人もいるでしょう。でも頭の中のことは、時間がたつと忘れたり、自分の都合の良いように変わったりしがちです。だから、ある時点で立ち止まって振り返りチェックしようとしても、そのデザインが有効に働きません。デザインは、未来の設計図であると同時に、進行度合いをチェックする指標でもあります。

あなたが大学生活でやりたいことは何でしょうか。あなたの学生時代は、あとどのくらいの時間があるでしょうか。その時間を有意義に使うためにも、ぜひ大学生活のデザインに取り組んでほしいのです。

社会に出てからも役に立つ

大学生活を、デザインすることなく過ごした人は、時間をムダに過ごすだけでなく、就職活動のときにも評価されません。採用試験ではエントリーシートにしろ面接にしろ、問いかけ方法はさまざまですが「大学生活をどのように過ごしたか」が質問されます。そのなかで自分が、価値あることをいかにたくさんやってきたかを述べても、それだけでは評価は低いものです。どのように考え、いかに実行し、成果はどうだったか、という一連のプロセスが的確に述べられてはじめて評価の対象になるのです。

社会に出て行う仕事には必ず、デザインし実行するという面があります。生産にしろ営業にしろ、あるテーマが与えられれば、まず目標を設定し、それを実現するための「デザイン」をし、スケジュールを立てて実行します。実行のプロセスでは、節目ごとに達成度をチェックし、ときにはデザインを修正し、目標とした成果に結びつけていきます。

- デザインは、未来の設計図であると同時に、進行度合いをチェックする指標でもある。
- 大学生活をデザインすることは、社会で必要とされるスキルを、実践的に身につけることにつながる。

大学生活をデザインすることは、社会に出て仕事をするうえでのベーシックなスキルを、実践的に身につけるという面があることも理解しましょう。

「豊かな人生」実現の有効な手段

デザインすることが、大学生活や仕事を有意義にするのと同じ理由で、人生全体を豊かにする有効な手段になることは、容易に理解できるでしょう。

学生時代にデザインに取り組んでおくことには、もう一つのメリットがあります。たとえば企業に入ると、つき合いのためにゴルフをはじめる人が多いです。そのとき、基礎が大切か、実践が優先か、教室に通うか、本やビデオなどの教材で取り組むか、あるいはもっぱら周りの人に教えてもらうか、いろいろな方法が考えられます。手取り足取り教えてもらえた学校を卒業し、社会人になってから何かに取り組む場合、誰もがその人なりの方法論で習得をめざします。「自分なりのやり方」を発見し、確立する第一歩となるのが、大学でのデザインです。同時に、デザインして実行するなかで自分の強みや弱み、人間性が見えてきます。それを理解するのもデザインすることのメリットです。

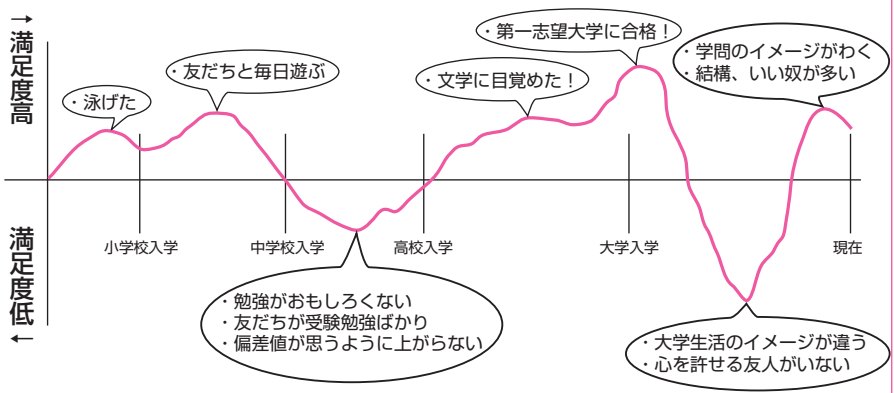
「デザインすること」の有効性が分かったら、自分の将来の目標、そのために必要となる力、取り組みたい活動の領域と達成レベルを設定し、ぜひ一度シートにまとめてみましょう。そのシートをもとにして、学期末や、学年末などの節目に振り返ってください。このような一連のプロセスは、大学生活だけでなく、人生のどの場面においても大切な振り返りであることを理解しましょう。

Note 1 自分の人生を振り返ろう

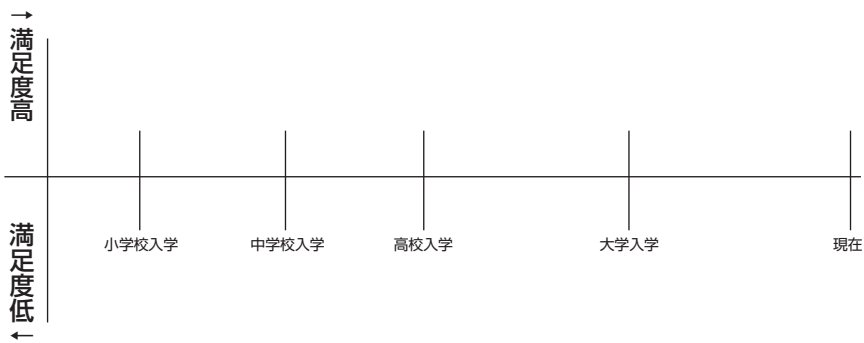
Check! P.2 の「手帳内の演習用 Note のワークシートへのリンク」を使って、エクセルにて作成し保存しておこう。
いつでも見直すことができて大変便利です。

●自分の現在を知り、未来を推し量るために、自分がこれまでどんなことに満足し、何に不満を抱いてきたか、振り返ってみよう。
●大学入学前の小学時、中学時、高校時から現在までのそれぞれの時期における出来事を、満足度の高いこと（＋）と満足度の低いこと（－）に分類しながら書き出してみよう。書き出す内容はどんなことでも構わない。思いつくままに、印象に残っている出来事を書き出そう。
●自分の過去の「＋」と「－」を知ることで、自分の姿が見えてくるだろう。

ライフ・ラインチャート（例）



ライフ・ラインチャート



●ライフ・ラインチャートを完成させた後に、良い時期（＋）、悪い時期（－）に関するエピソードを考えてみよう。あなたに影響を与えたことを振り返ることで、キャリアデザインに役立てよう。

「＋」の時期と「－」の時期に関する、エピソードを記入してみよう

「＋」の時期

時　期	エピソード

「－」の時期

時　期	エピソード

下降していた線が上向きに変わった時期のプロセス、動機や行動を思い出してみよう

「＋」の時期と「－」の時期、それぞれにどんなことがあったのか、どんな環境、状況だと充実していられるのか、考えて記入してみよう

「＋」の時期

「－」の時期

あなたが充実するためには何が必要なのか考えてみよう